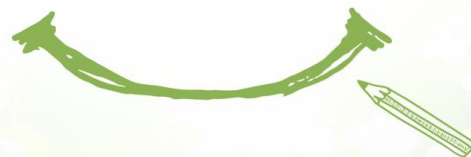


RESAS出前講座 活用編

あなたの住んでいる地域の研究に
データを活用してみよう！

データで信州の
未来を創ろう

RESAS



SCOP
Design the next stream

飯田OIDE長姫高校 H28.11.25

はじめに : 講座を担当する私たちのご紹介



地域の課題解決・成長に寄与する 地域のための総合政策シンクタンク

事業内容:

- 行政計画策定
- 社会調査／市場調査
- 研修企画、実施
- 市民会議等のファシリテーション
- プロモーション
- 各種コンサルティング 等

業務分野:

- 産業（農業・観光・サービス業・工業振興等）、地域ブランド
- 医療・福祉
- 地域公共交通
- 教育・文化振興
- 協働制度構築、ファンドレイジング等

本日の講座の内容（50分）

1. 講座の目的と意義
2. 統計データの活用のポイント
3. RESASの紹介
4. RESASを使ってみよう

この講座で
学ぶこと

データを活用しながら
「説得力」をもった
地域の問題・特徴の示し方



1. 講座の目的と意義

地域（まち）づくりの提案に「説得力」が必要な理由

なぜ、地域(まち)づくりの提案には、「説得力」が必要なのでしょうか？

それは、

「地域(まち)を変えるには、



多くの人々の協力が必要になる」から。

しかし、

・地域(まち)は広く、複雑

→問題・特徴を正確に捉えることが難しい

・地域(まち)には様々な年齢、考え、立場の人々が暮らしている

→誰かが問題・特徴だと思えることが“共有できる”とは限らない

騒がしくなく
なって嬉しい



まちの活気が
ないなあ...



立ち退いて
くれない人が
いて、再開発
が進まない...

➡ 地域の問題や特徴を“みんな”と共有するには「説得力」が必要

本講座で学ぶこと

データを活用して



「説得力」のある
問題・特徴の提示

人々の
共感・協力・行動を引き出す
↓
「困りごとの解決」
「魅力づくり」

地域分析に活用できる主なデータ

数値(定量的な情報)

アンケート

統計



言葉・文章(定性的な情報)

文献

ヒアリング

観察・体験

今回はデータのうち「統計」に注目し「RESAS」の活用も含めて学ぶ

2. 統計データの活用のポイント

■「データを活用」の考え方

問題解決や新しい価値・魅力の創造のためにデータを活用すること。

「データ活用」のためには、まずデータを「収集」し、意味を読み解くため「分析」し、人に伝えるために「表現」することが必要となる。



統計とは？ー統べて 計る

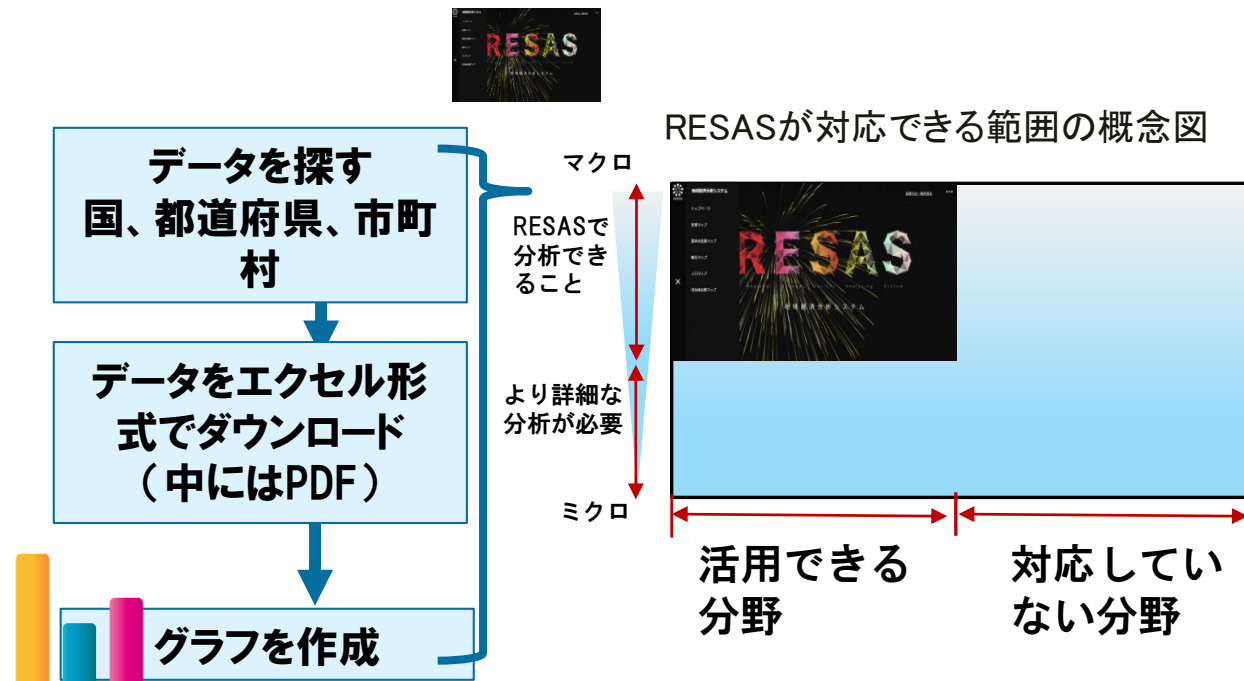
- 統計とは、気温の変化や天気などの自然現象のしくみや、地域や社会の集団の特徴などを知るために、調査したり、実験したりして、データを集めて、それを整理し、集計したもの。このようにしてまとめた表やグラフ、集計した数値を「統計」という

出典：東京都総務局統計部HP内コンテンツ「まなぼう統計」を編集

- 統計情報は、国、県、市町村、その他、団体や企業等が公開・提供しているものがある。国、県、市町村が提供している統計情報は、数値をExcelやPDF形式で公開している。データをダウンロードし、加工し、グラフの作成を行う。
- この後、説明をするRESASは、人口、産業などの分野の一部データのグラフ化までを自動的に行ってくれる便利なツール。

国・県・市町村の代表的な統計情報

	代表的な統計情報
国	総務省：国勢調査 経産省：経済センサス 農水省：農林センサス
県	毎月人口異動調査 県民経済計算
市町村	住民基本台帳

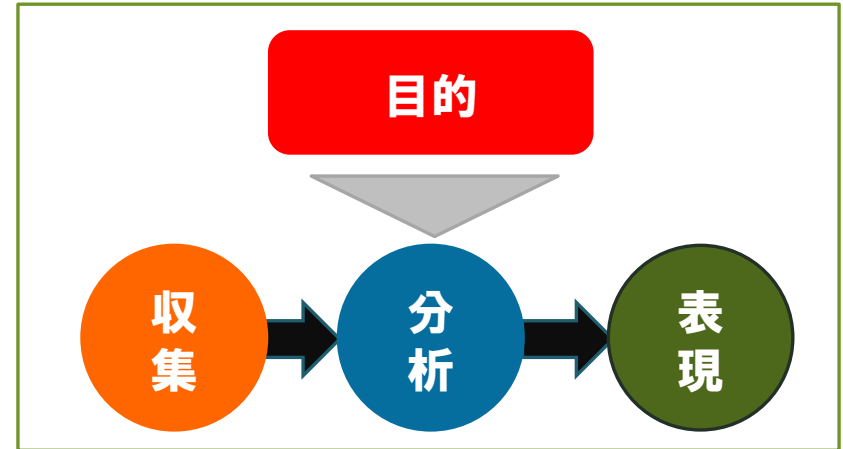


統計データの有効活用のためのポイント



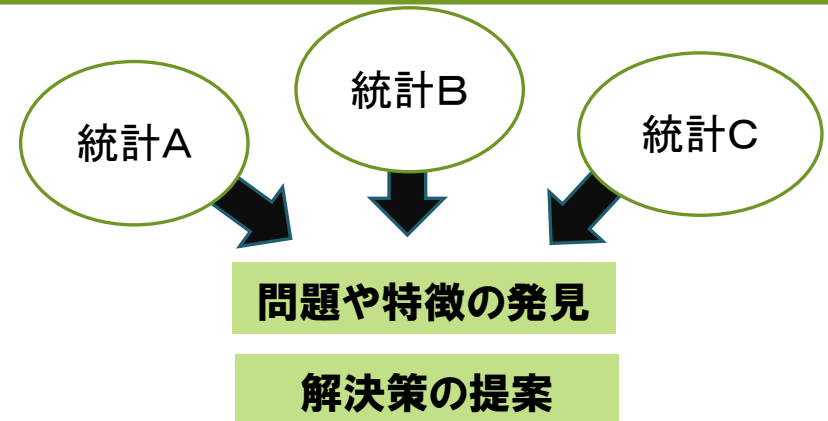
ポイント1: 目的を持って取り組む

- データは、無数にある。明らかにしたいこと（目的）をハッキリと意識しないと、どのようなデータを集め、どのような分析をすべきかは、見えてこない。
- 何のために、データの収集⇒分析⇒表現を行い、何を明らかにするのか、確認するのかを見失わずに取り組むことが必要



ポイント2: 目的に応じ、データを取捨選択し、多角的な視点で考える

- 統計情報、アンケート調査、ヒアリング調査等様々なデータがある。
- 関係する情報を収集し、多角的にみていくことが必要。（データ間で、異なる傾向がでる場合もあります。）



例：調査目的を持って多くのデータを探すイメージ

ポイントは、集めるべき情報を考えながら、該当するデータを探すこと

問題・特徴の発見

観光産業が元気がない。なぜ？何が問題か？

誰が、どこに、どのくらい来ているのか？

いくら使っているの？

どのくらい滞在しているの？

観光客数(国内／海外)

観光消費額

日帰り／宿泊比率

解決策の検討

もっと旅行者を呼び込むヒントはないの？

どの国の人が、どこに、どのくらい来ているのか？

団体旅行、個人旅行？

どんなルートで移動しているの？

国籍別の観光客数

旅行形態

立ち寄り地点

統計データの有効活用のためのポイント

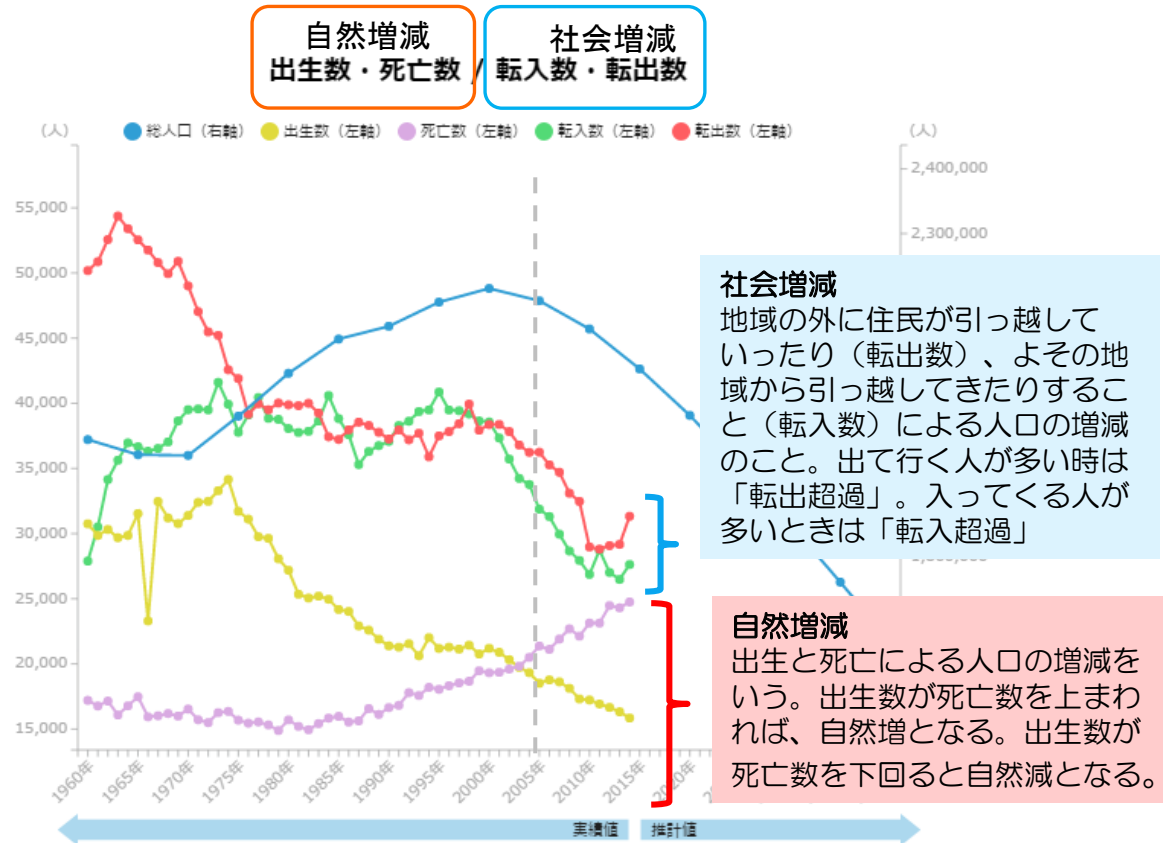
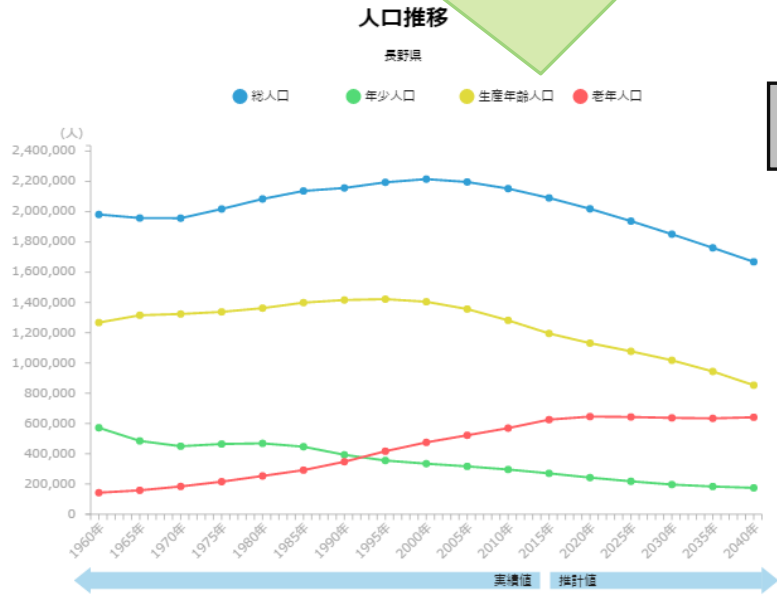


ポイント3: 「全体像」を把握してから、「詳細分析」をする

- 全体像を知らないまま、詳細の分析を進めると強みや弱みを読み間違えたり、状況がわからなくなる。

例：長野県の人口の増減について

長野県の総人口は2000年(2,215,168人)をピークに減少している。
総人口が減り始めた要因は？



社会増減
地域の外に住民が引っ越していったり(転出数)、よその地域から引っ越してきたりすること(転入数)による人口の増減のこと。出て行く人が多い時は「転出超過」。入ってくる人が多いときは「転入超過」

自然増減
出生と死亡による人口の増減をいう。出生数が死亡数を上まわれば、自然増となる。出生数が死亡数を下回ると自然減となる。

【出典】RESAS 人口マップー人口構成、人口増減／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

長野県の出生数と死亡数をみると、2003年に逆転し、以降、死亡数が上回っている。また、長野県の転入・転出数は拮抗しつつ推移してきたが、2001年から転出数が上回っている。自然増減(出生数-死亡数)、社会増減(転入数-転出数)ともに長野県の人口減少の要因となっている。

統計情報を収集するときの注意点

データを収集するときは「誰が」実施した調査なのか、「いつ」の時点のどの調査なのか、「どんな」調査方法なのか、確認しながら集める必要があります。

必ず、出典を記載する

出典の記載例

出典：総務省統計局「国勢調査」(平成22年)

調査によって、対象範囲・数値の算出の仕方が異なる場合があります。

例：総人口

●●市の
総人口

総務省：国勢調査(5年に1回)
⇒ふだん住んでいる場所

市町村：住民基本台帳
市町村の「住民基本台帳」に登録されている人の数
⇒生活の拠点

住民票を移動せずに、
他の市町村に居住
している場合は、住
民基本台帳の方が
総人数が多くなる

その他、注意
すべきこと

- 合併した市町村のデータ

合併前のデータは、旧自治体別に示されています。合併前のデータと比べる場合は、旧自治体の数値を考慮する必要があります。

- 調査カテゴリーの変更

調査項目の分類が、時代にあわせて変化する場合があります、推移を見るときは注意する必要があります。

例：経済センサスの小分類は、「日本標準産業分類」を基に作成している。

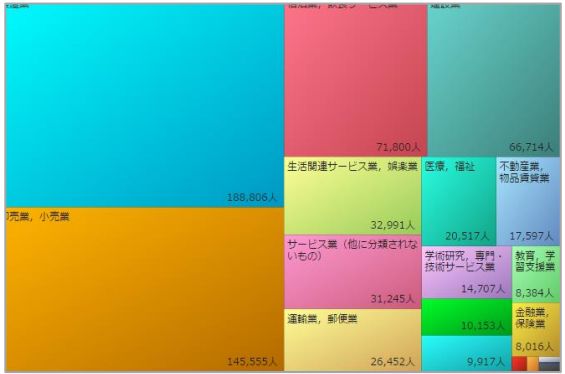
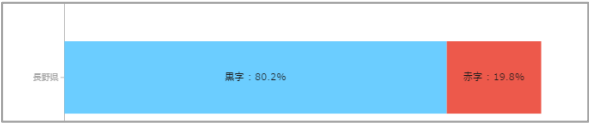
平成19年に「日本標準産業分類」の改定があり、調査項目の新設・廃止等が行われている。

統計情報を分析すること

分析する視点には、「構成」「変化」「比較」の3つがある。
 この3つの視点を用いることで、地域（まち）の特徴（強み・弱み）や企画を検討するときの判断材料を得られる。

構成

全体がどのような要素で構成されているか、内訳を確認する



変化(推移)

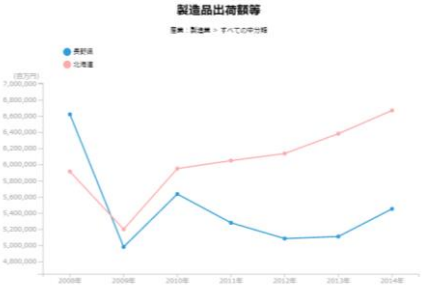
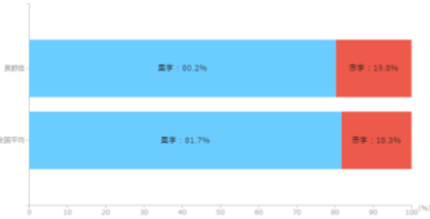
同一対象物の変化を時系列でみる



【出典】
 経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」
 【その他の留意点】+

比較

量、長さ、重さ、強さなど、同一の基準で2つ以上の対象物を比べる



【出典】
 経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」
 【その他の留意点】+

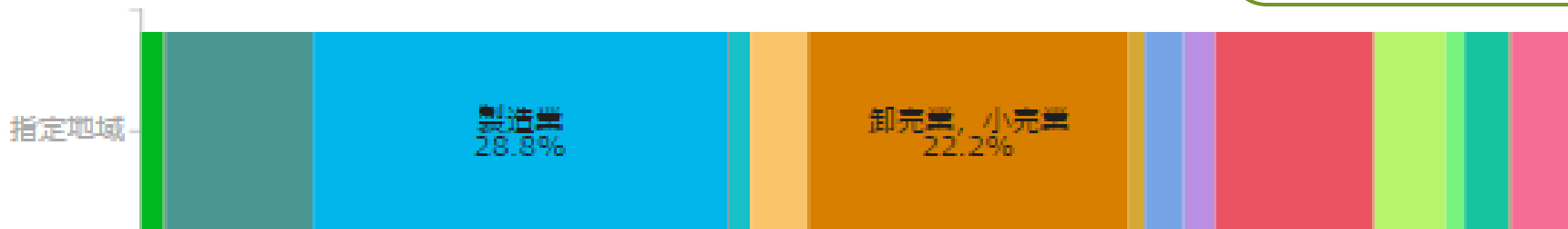
統計情報を分析すること

構成をみる

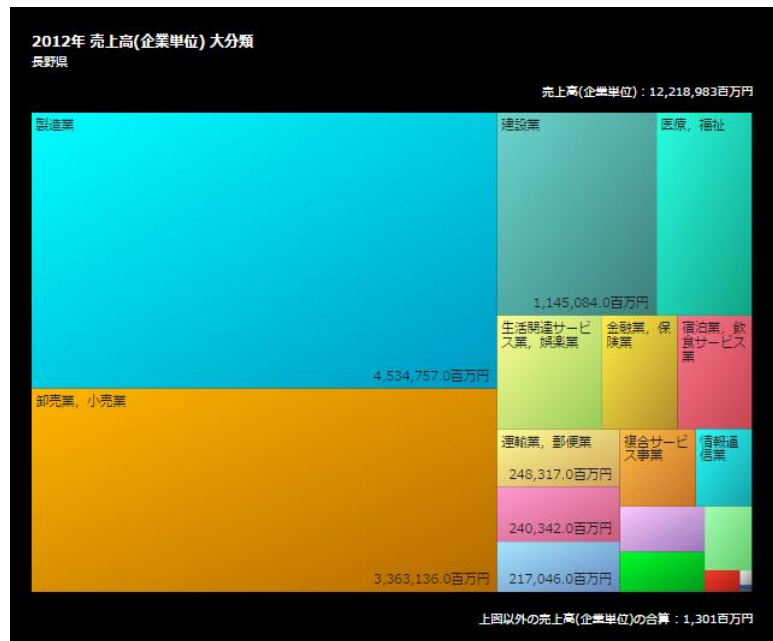
従業者数(企業単位) 2014年

指定地域：長野県

長野県の従業者数をみると、「製造業」の割合が最も高い。製造業は雇用を生み出し売上高も大きく基幹産業といえる。



- 農林業 119,162.0百万円 (1.0%)
- 建設業 1,145,084.0百万円 (9.4%)
- 情報通信業 156,060.0百万円 (1.3%)
- 金融業, 保険業 300,952.0百万円 (2.5%)
- 宿泊業, 飲食サービス業 297,420.0百万円 (2.4%)
- 医療, 福祉 686,163.0百万円 (5.6%)
- 公務 (他に分類されるものを除く) -百万円 (-%)
- 漁業 1,392.0百万円 (0.0%)
- 製造業 4,534,757.0百万円 (37.1%)
- 運輸業, 郵便業 248,317.0百万円 (2.0%)
- 不動産業, 物品賃貸業 217,046.0百万円 (1.8%)
- 生活関連サービス業, 娯楽業 422,250.0百万円 (3.5%)
- 複合サービス事業 207,654.0百万円 (1.7%)
- 分類不能の産業 -百万円 (-%)
- 鉱業, 採石業, 砂利採取業 6,193.0百万円 (0.1%)
- 電気・ガス・熱供給・水道業 26,657.0百万円 (0.2%)
- 卸売業, 小売業 3,363,136.0百万円 (27.5%)
- 学術研究, 専門・技術サービス業 137,663.0百万円 (1.1%)
- 教育, 学習支援業 107,434.0百万円 (0.9%)
- サービス業 (他に分類されないもの) 240,342.0百万円 (2.0%)



【出典】RESAS 産業マップー全産業花火図／総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」再編加工

統計情報を分析すること

推移をみる

製造品出荷額等

産業：製造業 > すべての中分類



【出典】RESAS 自治体比較マップー製造出荷額等／経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」

統計情報を分析すること

比較する

従業員数について全国の構成比と比較すると、製造業は長野県の方が割合が高い。全国と比べて、長野県における製造業は雇用を吸収している割合が高いといえる。

特化係数とは
ある地域内の産業のシェアや生産性が全国と比べてどれくらい高いかを表す指標。
1.0を超えていれば、当該産業が、全国と比べて、産業に占める割合が高いとされる。

従業員数(企業単位) 2014年

指定地域：長野県



特化係数の算出の仕方

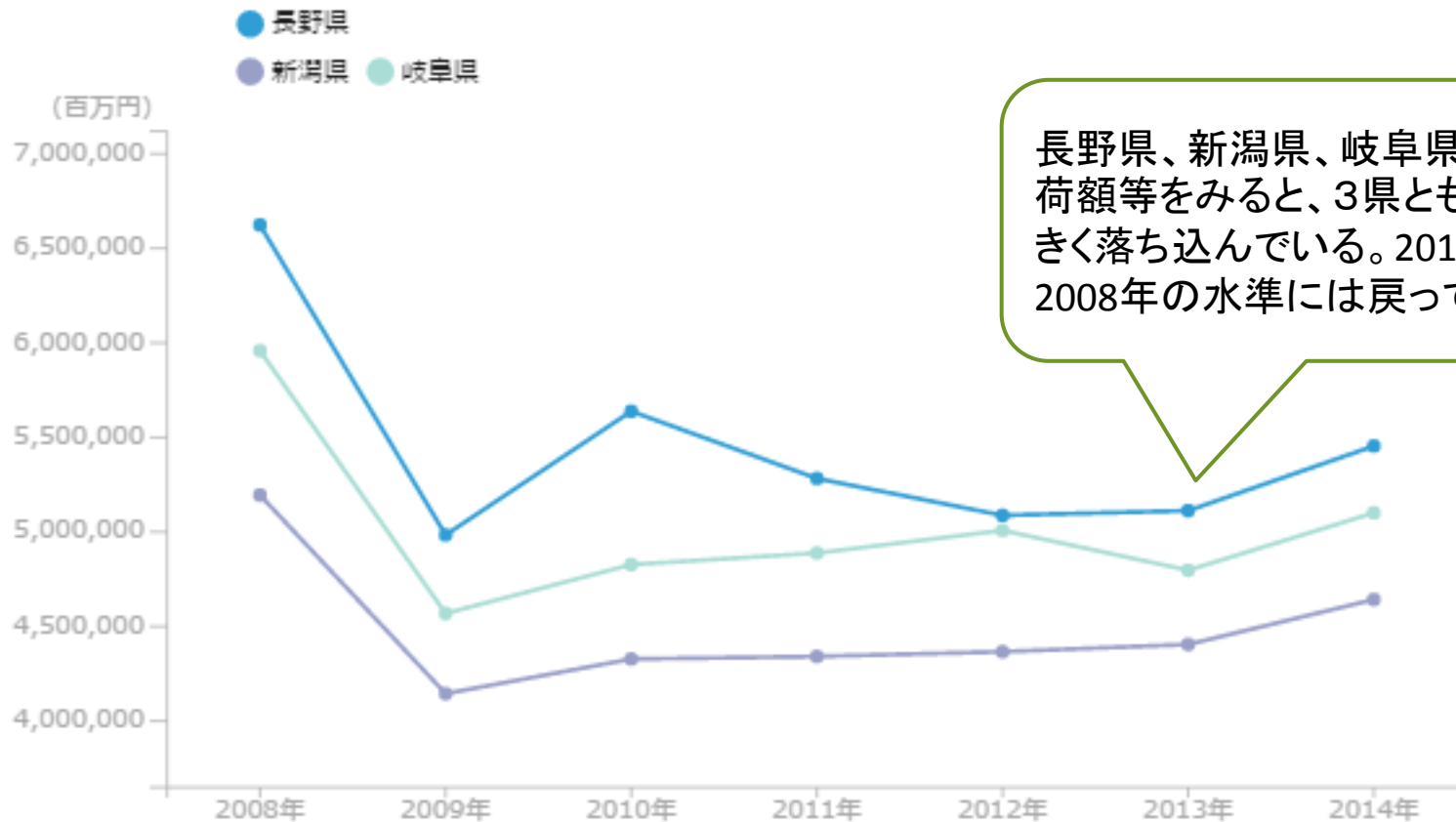
$$\frac{\text{長野県の産業の従業員数における製造業の割合 } 28.8\%}{\text{全国の産業の従業員数における製造業の割合 } 20.3\%} = 1.42$$

統計情報を分析すること

比較する

製造品出荷額等

産業：製造業 > すべての中分類



長野県、新潟県、岐阜県の製造品出荷額等をみると、3県とも2009年に大きく落ち込んでいる。2014年時点でも2008年の水準には戻っていない。

【出典】RESAS 自治体比較マップー製造品出荷額等／経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」

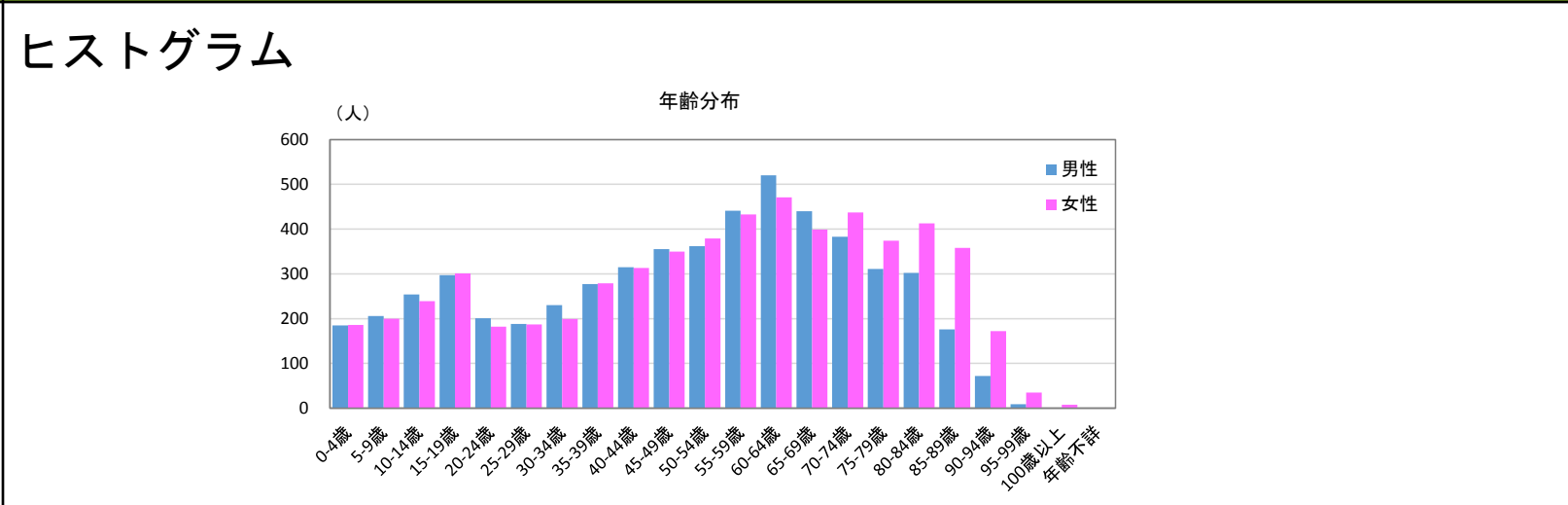
統計情報の表現手法

表現したいこと	グラフの種類																																
<p>量の大小を あらわす</p>	<p>棒グラフ</p> <table border="1"> <caption>棒グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1990年</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>1995年</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>2000年</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>2005年</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	年	人数	1990年	10	1995年	30	2000年	50	2005年	20	2010年	80																				
年	人数																																
1990年	10																																
1995年	30																																
2000年	50																																
2005年	20																																
2010年	80																																
<p>増減を あらわす</p>	<p>折れ線グラフ</p> <table border="1"> <caption>折れ線グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>赤丸</th> <th>青四角</th> <th>黄十字</th> <th>緑三角</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2011年</td> <td>338</td> <td>289</td> <td>165</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>2012年</td> <td>334</td> <td>304</td> <td>198</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>2013年</td> <td>320</td> <td>270</td> <td>197</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>2014年</td> <td>377</td> <td>288</td> <td>184</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>2015年</td> <td>310</td> <td>300</td> <td>196</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table>	年	赤丸	青四角	黄十字	緑三角	2011年	338	289	165	89	2012年	334	304	198	72	2013年	320	270	197	73	2014年	377	288	184	70	2015年	310	300	196	66		
年	赤丸	青四角	黄十字	緑三角																													
2011年	338	289	165	89																													
2012年	334	304	198	72																													
2013年	320	270	197	73																													
2014年	377	288	184	70																													
2015年	310	300	196	66																													
<p>構成の割合を あらわす</p>	<p>円グラフや帯グラフ</p> <table border="1"> <caption>円グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>わからない</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>そう思う</td> <td>20.0%</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>36.0%</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>6.0%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>帯グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体 N=235</td> <td>14.5</td> <td>47.2</td> <td>31.1</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td>いる N=113</td> <td>10.6</td> <td>43.4</td> <td>39.8</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td>いない N=121</td> <td>17.4</td> <td>51.2</td> <td>23.1</td> <td>8.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	わからない	4.0%	そう思う	20.0%	ややそう思う	34.0%	あまりそう思わない	36.0%	そう思わない	6.0%	凡例	A	B	C	D	全体 N=235	14.5	47.2	31.1	7.2	いる N=113	10.6	43.4	39.8	6.2	いない N=121	17.4	51.2	23.1	8.3
回答	割合																																
わからない	4.0%																																
そう思う	20.0%																																
ややそう思う	34.0%																																
あまりそう思わない	36.0%																																
そう思わない	6.0%																																
凡例	A	B	C	D																													
全体 N=235	14.5	47.2	31.1	7.2																													
いる N=113	10.6	43.4	39.8	6.2																													
いない N=121	17.4	51.2	23.1	8.3																													

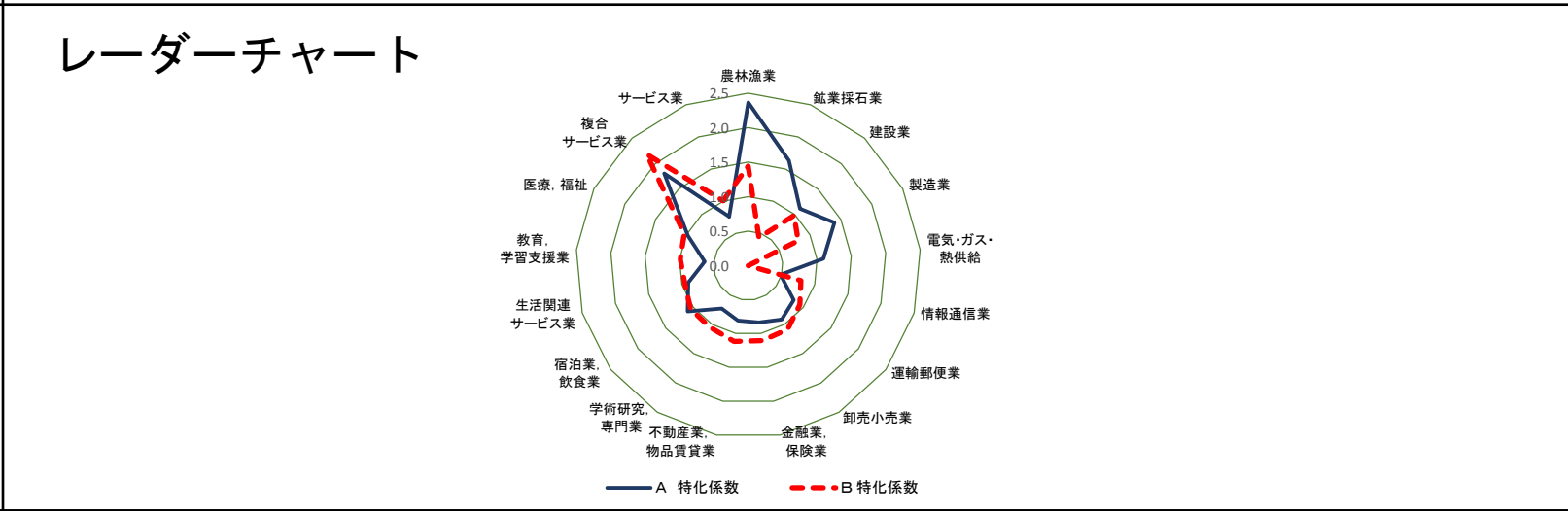
統計情報の表現手法

表現したいこと	グラフの種類
---------	--------

データの散らばり具合をあらわす



複数の指標をまとめてあらわす



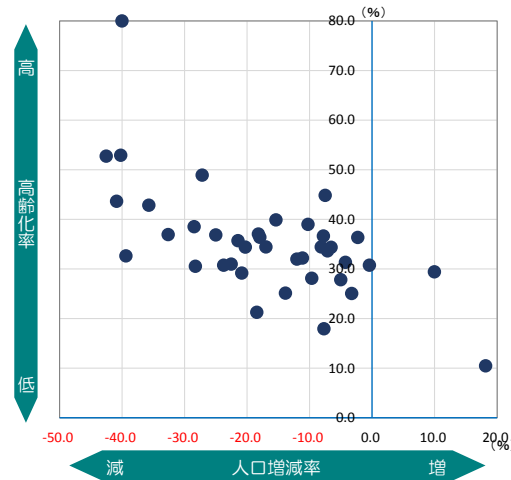
統計情報の表現手法

表現したいこと

グラフの種類

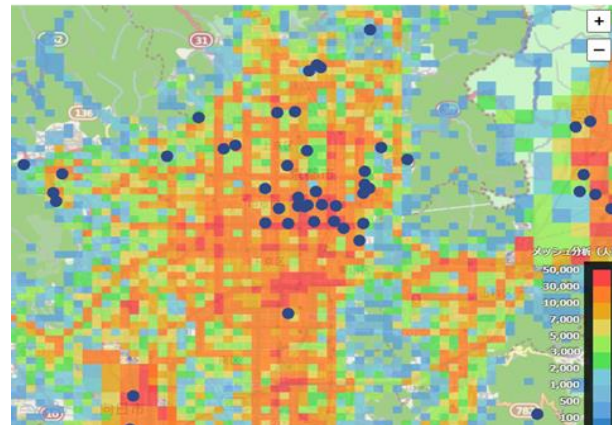
散布図

2つの量の
関係性を示す



ヒートマップなど

地理的特性と
あわせて示す

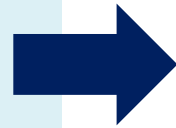


3. RESASの紹介



RESASとは？

Regional
Economy (and)
Society
Analyzing
System



RESAS（地域経済分析システム）

Google
日本

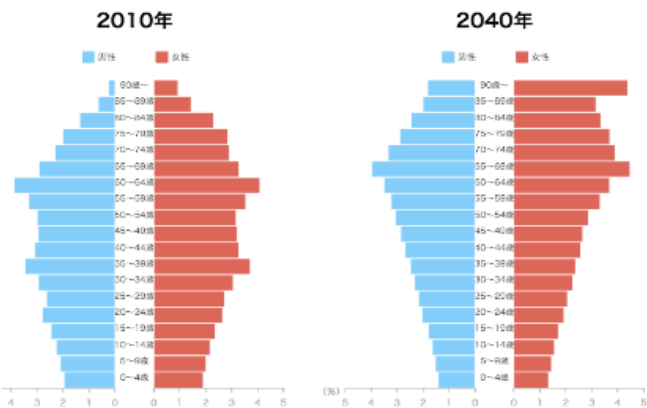


RESAS 検索または（リーサス）

- 地域経済に関わる様々なデータを収集し、かつ、わかりやすく「見える化」するシステムとして国が構築
- 平成27年4月からインターネットで公開（ブラウザは現在Google Chromeのみ）。誰でも利用可能。
- 誰もがデータを活用して地域の現状を把握し、地域の実情に合った課題解決の取組みができるよう支援するシステム

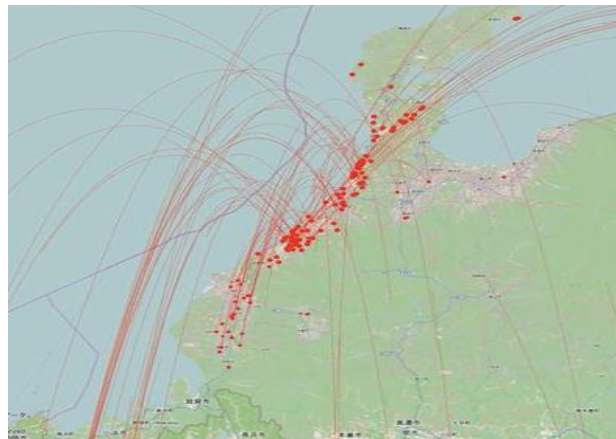
RESASでわかること（把握可能なデータ例）

人口マップ



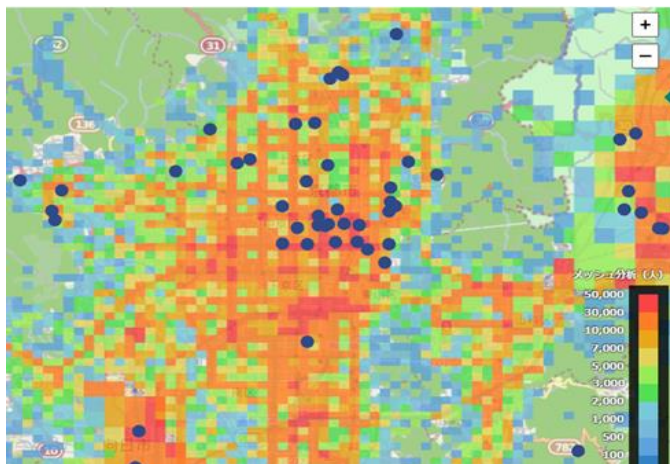
- 人口推計・推移
- 人口ピラミッド
- 出生数・死亡数
- 転入・転出 など

産業マップ



- 企業数
- 事業所数
- 雇用
- 売上付加価値額
- 稼ぐ力 など

観光マップ



- どこからどこに人が来ているか
- インバウンド観光動向 など

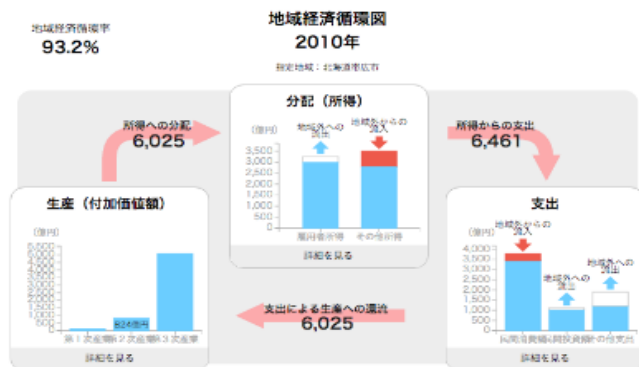
農林水産業マップ



- 農業部門別の販売、金額割合
- 農業経営者の年齢
- 農地の利用状況 など

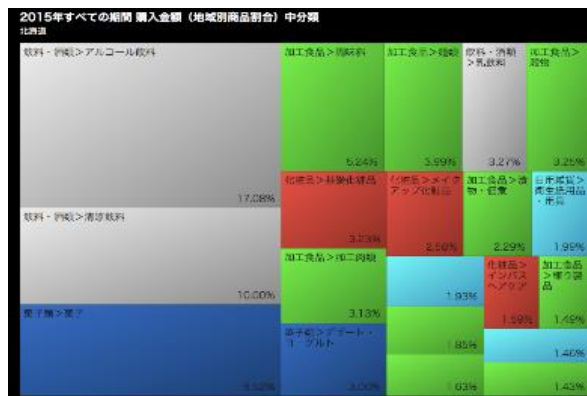
RESASでわかること（把握可能なデータ例）

地域経済循環マップ



- 自治体の生産・分配・支出におけるお金の流入・流出 など

消費マップ



- 飲食料品や日用品の購入金額
- 飲食料品や日用品の購入点数の商品別シェア など

自治体比較マップ

産業比率順位
岡山県清津市
2012年

標準順位	全国
5位	448位

全国上位10自治体	全国下位10自治体	東京都内上位5自治体
1位 滋賀県東近江	1,713位 福島県大熊町	444位 千葉県八千代
2位 徳島県徳島市	1,713位 福島県郡山	445位 茨城県水戸市
3位 兵庫県西宮市	1,713位 福島県郡山	446位 東京都中央区
4位 東京都練馬区	1,713位 福島県二本松	447位 東京都目黒区
5位 埼玉県熊谷市	1,713位 千葉県市川市	448位 東京都港区
6位 香川県高松市	1,713位 埼玉県川口市	449位 東京都目黒区
7位 千葉県千葉市	1,713位 東京都足立区	450位 東京都目黒区
8位 北海道札幌市	1,713位 東京都葛飾区	451位 東京都目黒区
9位 東京都大田区	1,713位 東京都葛飾区	452位 東京都目黒区
10位 千葉県千葉市	1,713位 東京都葛飾区	453位 東京都目黒区

- 経済構造、企業活動、労働環境、地方財政の他の自治体との比較

地域経済分析システム(RESAS)のマップ一覧

1. 産業マップ

- 1-1. 全産業花火図(一般/限定(※))
- 1-2. 産業別花火図 (※)
- 1-3. 企業別花火図 (※)
- 1-4. 稼ぐ力分析
- 1-5. 製造業花火図
- 1-6. 製造業の地域間比較
- 1-7. 中小・小規模企業財務比較
- 1-8. 研究開発費の地域間比較
- 1-9. 特許分布図
- 1-10. 事業所立地動向
- 1-11. 輸出入花火図
- 1-12. 企業の海外取引額分析
- 1-13. 海外への企業進出動向

2. 地域経済循環マップ

- 2-1. 地域経済循環図
- 2-2. 生産分析
- 2-3. 分配分析
- 2-4. 支出分析
- 2-5. 労働生産性等の動向分析

3. 農林水産業マップ

- 3-1. 農業マップ
 - 3-1-1. 農業花火図
 - 3-1-2. 農産物販売金額
 - 3-1-3. 農地分析
 - 3-1-4. 農業者分析
- 3-2. 林業マップ
 - 3-2-1. 林業総収入
 - 3-2-2. 山林分析
 - 3-2-3. 林業者分析

3-3. 水産業マップ

- 3-3-1. 海面漁業マップ
 - 3-3-1-1. 海面漁獲物販売金額
 - 3-3-1-2. 海面漁船・養殖面積等分析
 - 3-3-1-3. 海面漁業者分析
- 3-3-2. 内水面漁業マップ
 - 3-3-2-1. 内水面漁獲物等販売金額
 - 3-3-2-2. 内水面漁船・養殖面積等分析
 - 3-3-2-3. 内水面漁業者分析

4. 観光マップ

- 4-1. From-to分析(滞在人口)
- 4-2. 滞在人口率
- 4-3. メッシュ分析(流動人口)
- 4-4. 目的地分析
- 4-5. 外国人訪問分析
- 4-6. 外国人滞在分析
- 4-7. 外国人メッシュ分析
- 4-8. 外国人入出国空港分析
- 4-9. 外国人移動相関分析
- 4-10. 外国人消費花火図
- 4-11. 外国人消費分析

5. 人口マップ

- 5-1. 人口構成
- 5-2. 人口増減
- 5-3. 人口の自然増減
(地域少子化・働き方指標(散布図))
- 5-4. 人口の社会増減
- 5-5. 将来人口推計

6. 消費マップ

- 6-1. 商業花火図
- 6-2. 商業の地域間比較
- 6-3. 消費花火図
- 6-4. From-to分析(消費動向)

7. 自治体比較マップ

- 7-1. 経済構造
 - 7-1-1. 企業数
 - 7-1-2. 事業所数
 - 7-1-3. 従業者数
 - 7-1-4. 製造品出荷額等
 - 7-1-5. 年間商品販売額
 - 7-1-6. 付加価値額
 - 7-1-7. 労働生産性
- 7-2. 企業活動
 - 7-2-1. 創業比率
 - 7-2-2. 黒字赤字企業比率
 - 7-2-3. 経営者平均年齢(※)
- 7-3. 労働環境
 - 7-3-1. 有効求人倍率
 - 7-3-2. 一人当たり賃金
- 7-4. 地方財政
 - 7-4-1. 自治体財政状況の比較
 - 7-4-2. 一人当たり地方税
 - 7-4-3. 一人当たり市町村民税法人分
 - 7-4-4. 一人当たり固定資産税

黒字：従来メニュー

赤字：28年度 第1次リリース分

※ 国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能な「限定メニュー」

RESASが扱っているデータ

企業・団体等が
有するデータ



携帯電話位置情報
カーナビ検索
POSデータ

- ・
- ・
- ・

自治体の有する
データ

国勢調査
農林業センサス
経済センサス
商業統計

- ・
- ・

■ 「地方創生☆政策アイデアコンテスト」のご案内

**RESASを活用して自らの地域を分析し、地域を元気にするよう
な政策アイデアを国民から募集**



うちにまかせる！
地元の**未来**！

**地方創生☆政策アイデア
コンテスト 2016
アイデア募集！**

新着情報

2016.8.8

教員向け研修会を全国8地域で開催します。

2016.7.29

昨年の高中生以下の部受賞作

「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」 地方創生担当大臣賞

福島市立岳陽中学校イノベーション部

「中学生の視点から地域の魅力を再発見し、観光プランを作る」



4. RESASを使ってみよう

～誰でも利用できるビッグデータ活用ツール



RESASトップページ



メニューをクリック

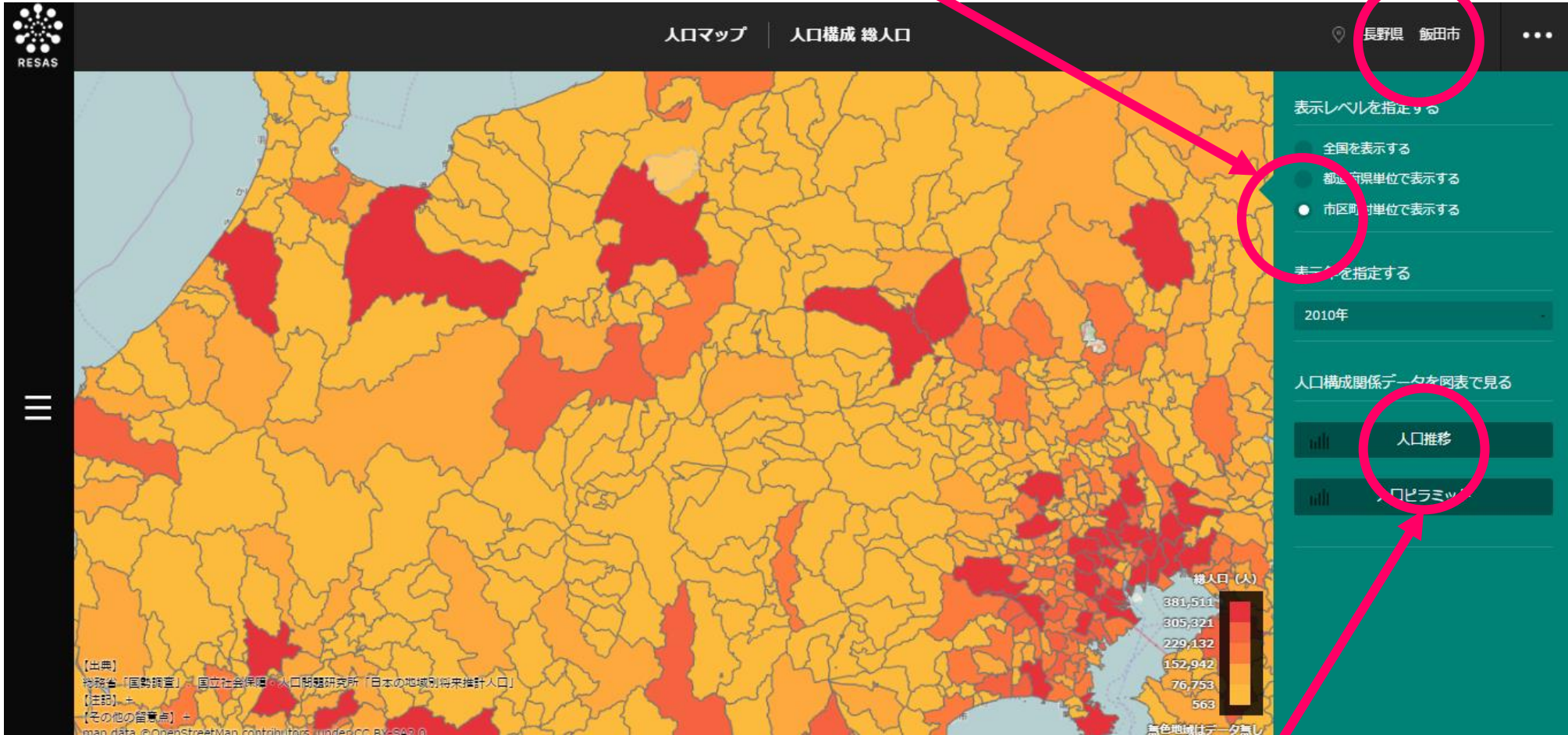
②人口構成をクリック



①人口マップをクリック

①「市町村単位で表示する」を選択

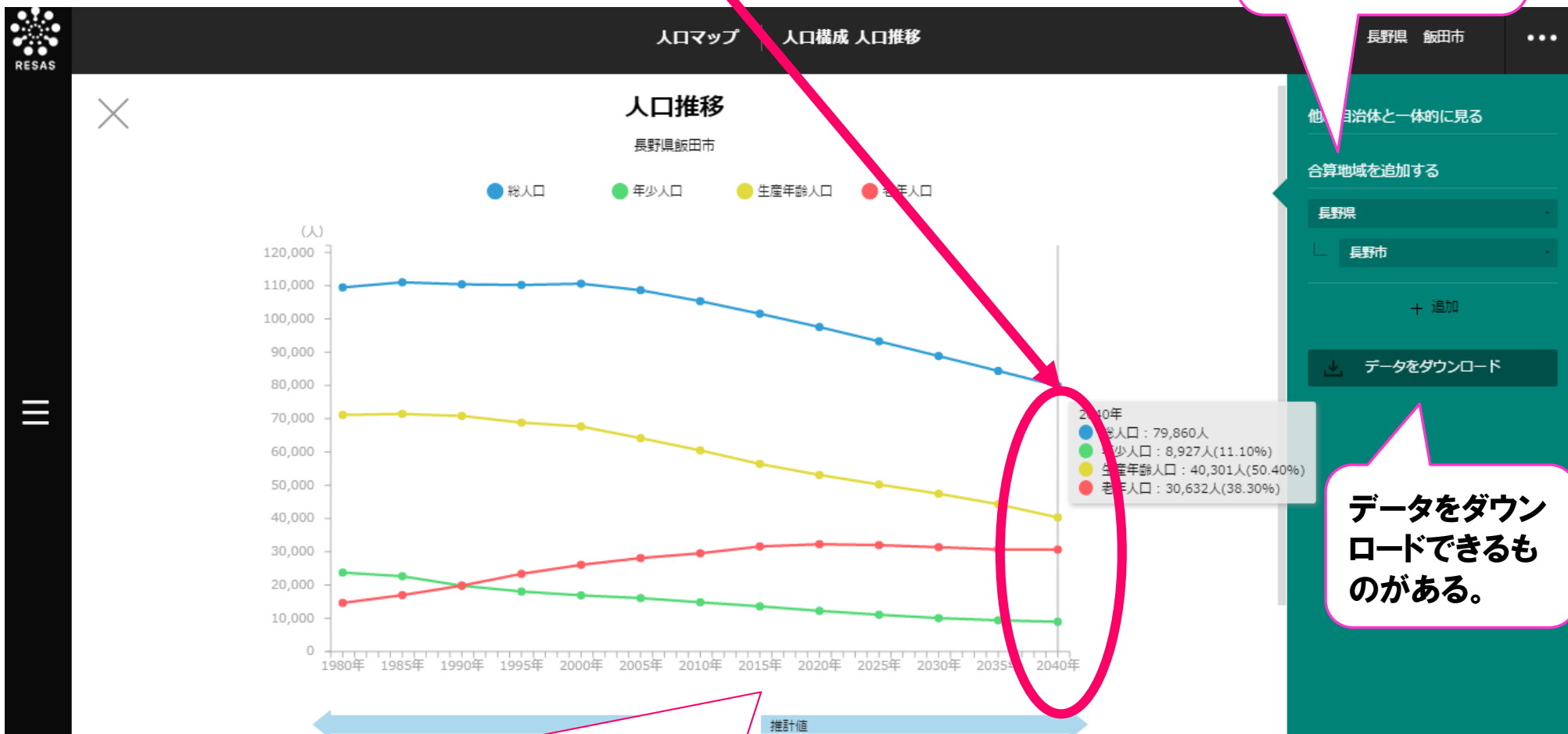
②長野県と該当する市町村を選ぶ



③人口推移をクリック

カーソルを合わせると数値が現れる

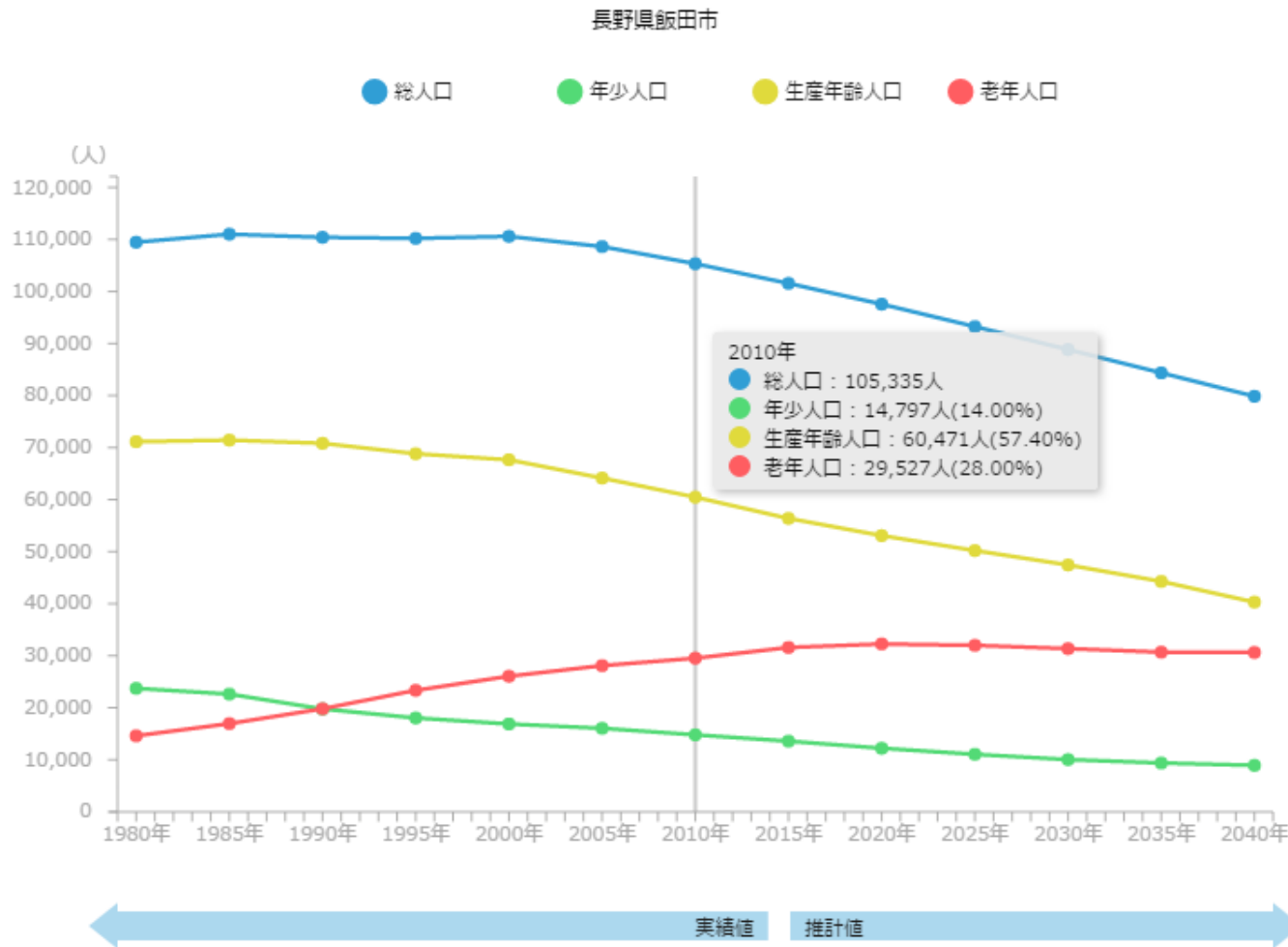
他地域との合算データを見ることもできる。



データをダウンロードできるものがある。

グラフをワード等、他の資料に貼り付けたいときには、スクリーンショットで保存して貼り付ける。

実践① 飯田市の将来人口予測をしてみよう



総人口

2010年

人



2040年

人

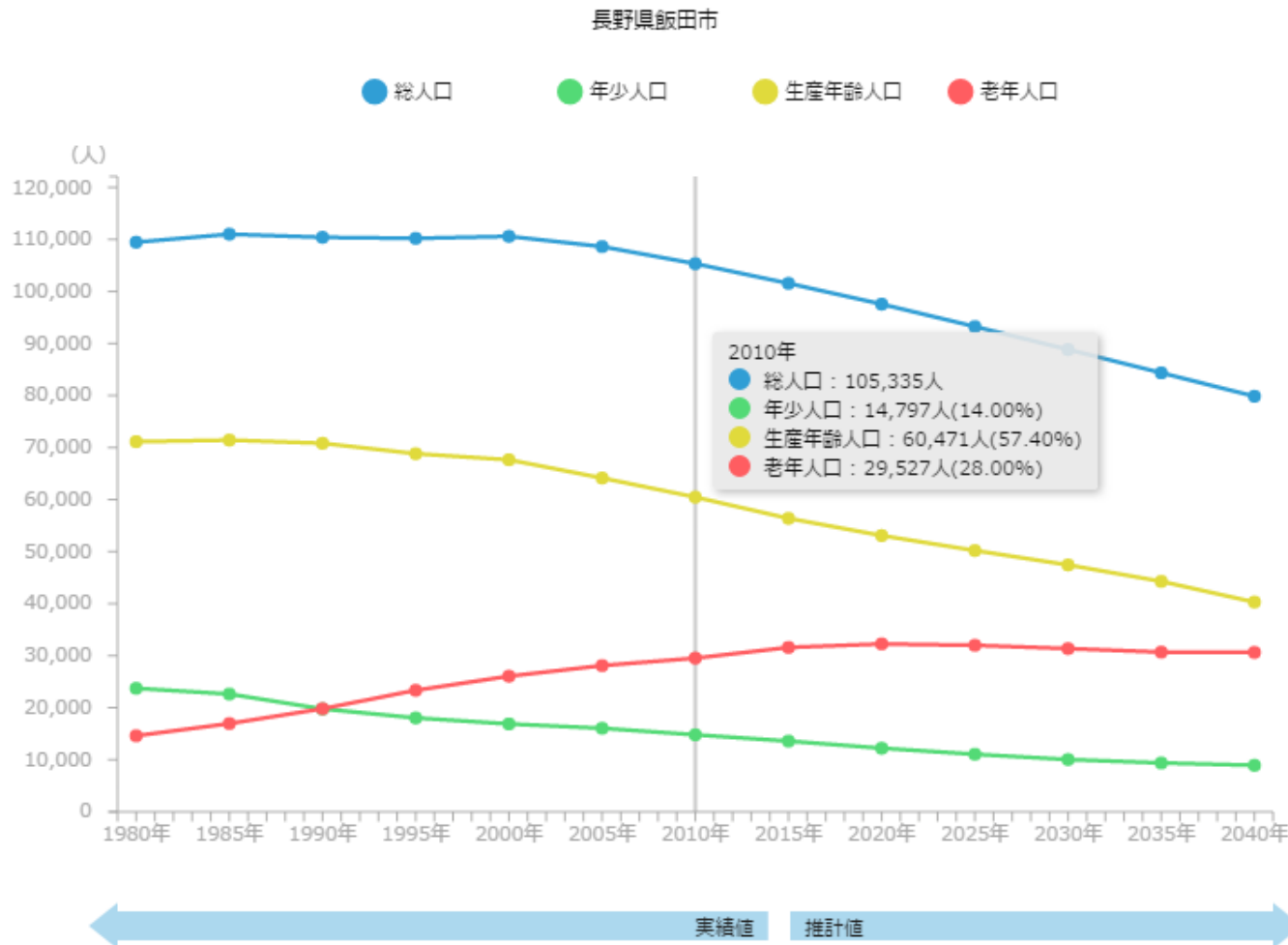
%減

★増減率の出し方

$$= (2040年 - 2010年) \div 2010年 \times 100$$

【出典】RESAS 人口マップー人口構成／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。総人口については、年齢不詳は除いている。

実践① 飯田市の将来人口予測をしてみよう



総人口

2010年

105,335人



2040年

79,860人

24.2%減

★増減率の出し方

＝ (2040年－2010年)
÷ 2010年 × 100

【出典】RESAS 人口マップー人口構成／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。総人口については、年齢不詳は除いている。

実践② 飯田市にどこから観光客が来ているか見てみよう

② From-to分析をクリック

④ 「市区町村→市区町村」を選ぶ

③ 長野県と該当する市町村を選ぶ

① 観光マップをクリック

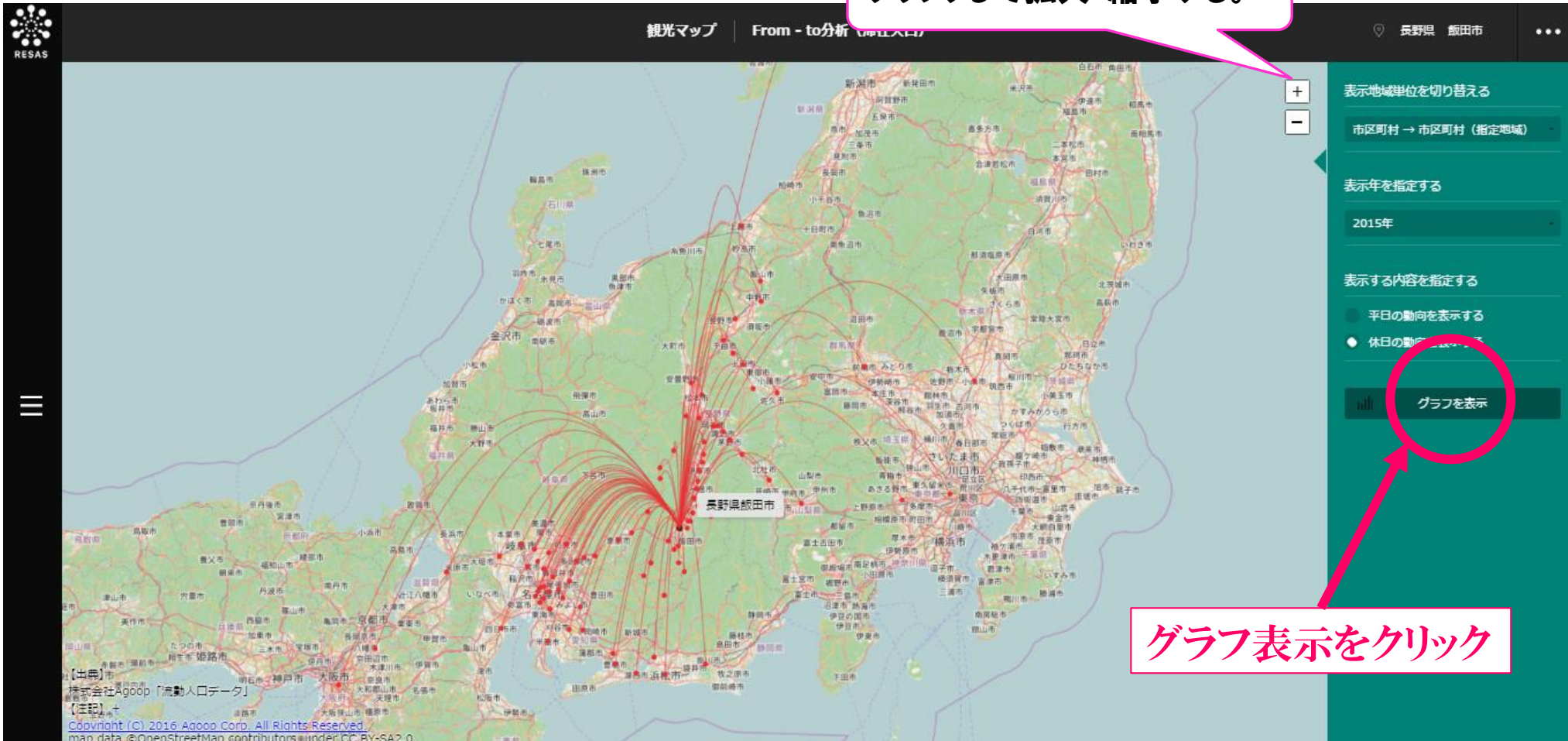
⑤ 「休日の動向」を選択

The screenshot displays the RESAS (Regional Economic Analysis System) interface. On the left is a navigation menu with the following items: トップページ (Home), 産業マップ (Industry Map), 地域経済循環マップ (Regional Economic Cycle Map), 農林水産業マップ (Agriculture, Forestry, and Fisheries Map), 観光マップ (Tourism Map), 人口マップ (Population Map), 消費マップ (Consumption Map), and 自治体比較マップ (Municipality Comparison Map). The '観光マップ' item is circled in red, with an arrow pointing to it from the instruction '①観光マップをクリック'. The main content area is titled '観光マップ | From - to分析 (滞在人口)'. It features a map of Japan with red dots indicating tourist origins, primarily concentrated in the Kanto region. On the right side, there is a settings panel with the following options: '表示する地域単位を切り替える' (Switch display area unit) with a dropdown menu set to '市区町村, 市区町村 (指定地域)'; '表示する年を指定する' (Specify display year) with a dropdown menu set to '2015年'; '表示する内容を指定する' (Specify content to display) with radio buttons for '平日の動向を表示する' (Selected) and '休日の動向を表示する'; and a 'グラフを表示' (Display graph) button. Arrows from instructions ②, ③, ④, and ⑤ point to the 'From-to分析 (滞在人口)' menu item, the location dropdown, the '市区町村→市区町村' dropdown, and the '平日の動向を表示する' radio button, respectively.

飯田市にどこから来ているか、「花火図」で感覚的に把握できます。
いろいろなところから来ていることがわかります。

From-to分析

クリックして拡大・縮小する。



グラフ表示をクリック

【出典】RESAS 観光マップーFrom-to分析(滞在人口)／株式会社Agoop「流動人口データ」

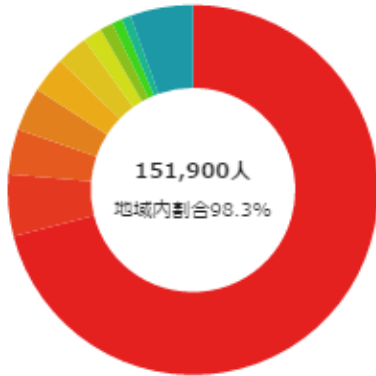
県内・県外ごとに、飯田市にどの市区町村から来ているのか、滞在人口のグラフとランキングが示されます。飯田市には県外のどこから多くきていますか？

長野県飯田市 休日
市区町村 → 市区町村

滞在人口合計：151,300人（滞在人口率：1.44倍）
（国勢調査人口：105,335人）

滞在人口 / 都道府県内

(市区町村単位)
2015年

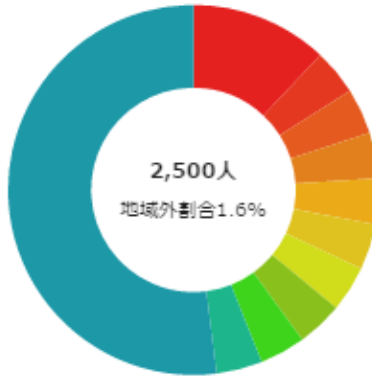


滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 長野県飯田市 107,800人 (70.9%)
- 2位 長野県高森町 8,200人 (5.3%)
- 3位 長野県松川町 6,000人 (3.9%)
- 4位 長野県喬木村 5,800人 (3.8%)
- 5位 長野県下條村 4,800人 (3.1%)
- 6位 長野県豊丘村 4,200人 (2.7%)
- 7位 長野県阿智村 2,500人 (1.6%)
- 8位 長野県阿南町 1,700人 (1.1%)
- 9位 長野県松本市 1,400人 (0.9%)
- 10位 長野県伊那市 1,200人 (0.7%)
- その他 8,300人 (5.4%)

滞在人口 / 都道府県外

(市区町村単位)
2015年



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 岐阜県中津川市 300人 (12.0%)
- 2位 埼玉県狭山市 100人 (4.0%)
- 3位 愛知県名古屋市緑区 100人 (4.0%)
- 4位 愛知県名古屋市港区 100人 (4.0%)
- 5位 愛知県名古屋市中川区 100人 (4.0%)
- 6位 愛知県名古屋市中村区 100人 (4.0%)
- 7位 愛知県名古屋市中区 100人 (4.0%)
- 8位 岐阜県可児市 100人 (4.0%)
- 9位 岐阜県土岐市 100人 (4.0%)
- 10位 岐阜県恵那市 100人 (4.0%)
- その他 1,300人 (52.0%)

休日の滞在人口率1.44倍
＝住んでいる人口に対し
1.44倍の人口が滞在して
いる

※滞在人口とは
滞在時間が2時間の人口

【出典】RESAS 観光マップーFrom-to分析(滞在人口)／
株式会社Agoop「流動人口データ」

実践③ 長野県の産業構造を見てみよう

②全産業花火図をクリック

③「都道府県単位で表示する」を選択

地域経済分析システム RESAS

産業マップ | 全産業花火図 | 長野県

産業マップ (産業マップをクリック)

全産業花火図 (全産業花火図をクリック)

表示レベルを指定する

- 都道府県単位で表示する
- 市区町村単位で表示する

表示内容を指定する

- 企業数(企業単位)
- 従業者数(企業単位)
- 売上高(企業単位)
- 付加価値(企業単位)
- 事業所数(事業所単位)
- 従業者数(事業所単位)

表示年を指定する

2014年

表示分類を指定する

- 大分類で見る
- 中分類で見る

従業員数(企業単位): 654,520人

業種	従業員数
宿泊業, 飲食サービス業	71,800人
建設業	66,714人
生活関連サービス業, 娯楽業	32,991人
医療, 福祉	20,517人
不動産業, 物品賃貸業	17,597人
サービス業 (他に分類されないもの)	188,806人
学術研究, 専門・技術サービス業	32,991人
教育, 学習支援業	17,597人

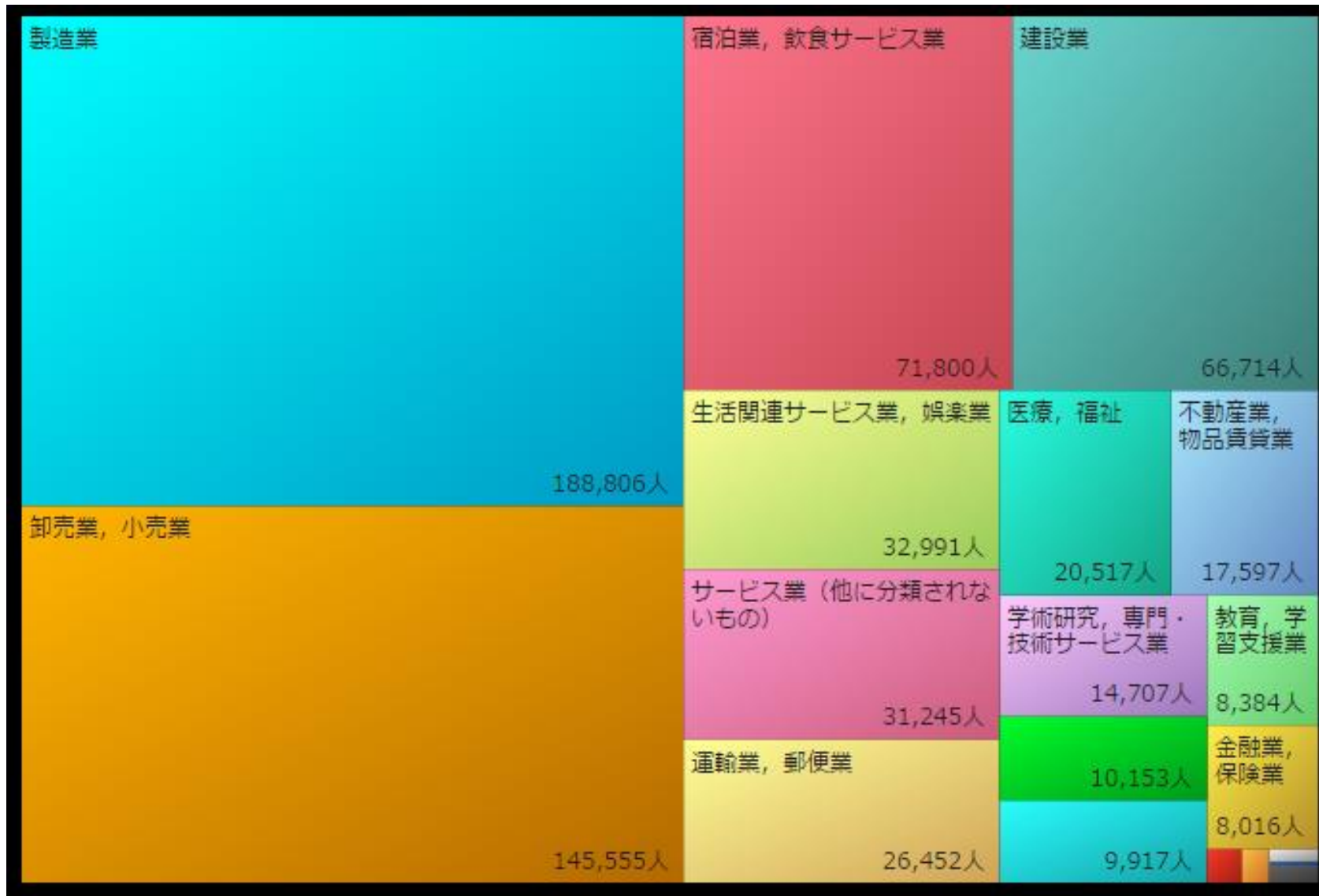
①産業マップをクリック

④従業者数(企業単位)を選択

⑤大分類を選択

2014年従業者数
(企業単位)

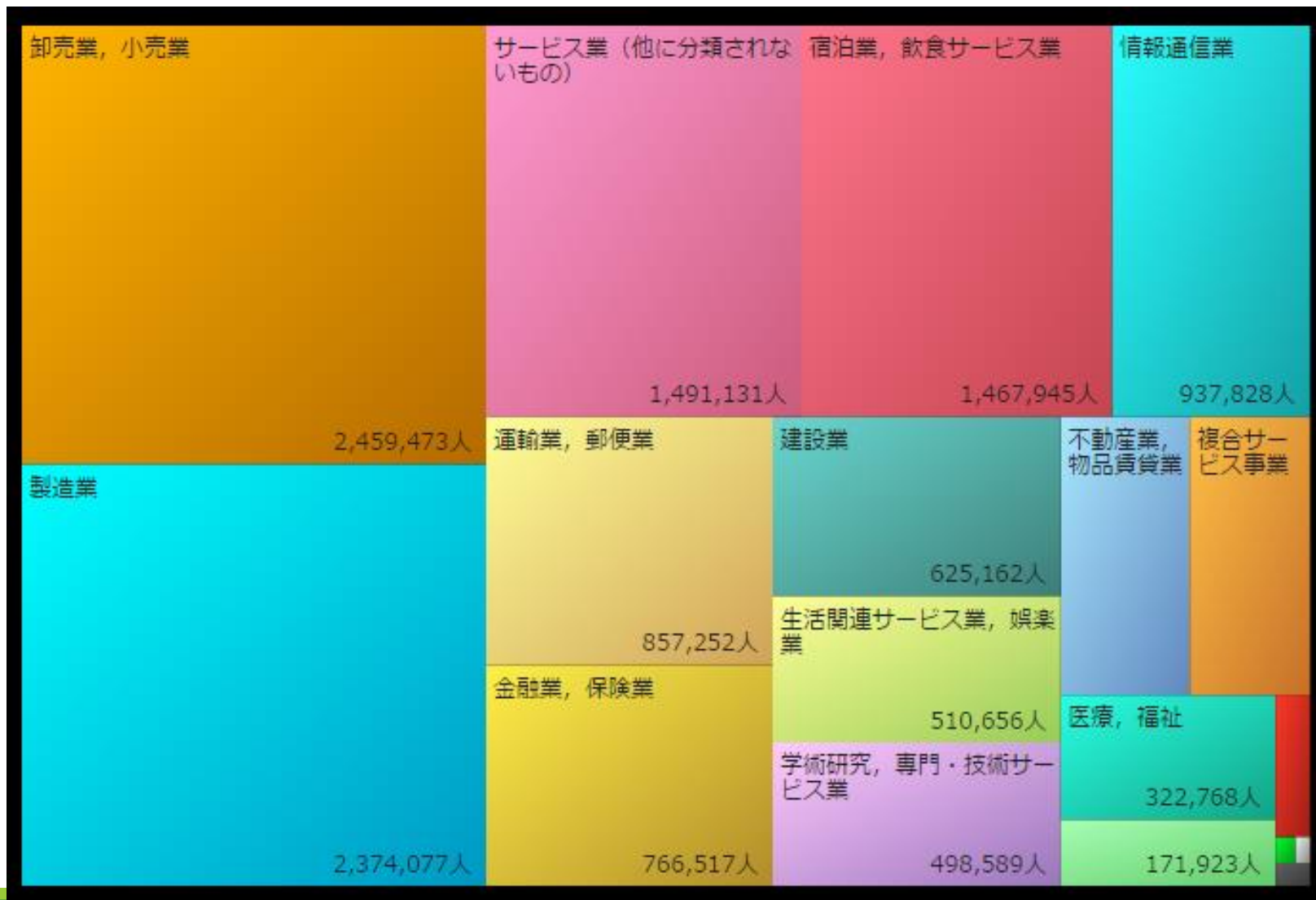
長野県は製造業従業者数が最も多く、次いで卸売業・小売業
となっています。この2つの産業で約半分を占めています。



【出典】RESAS 産業マップー全産業花火図／総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

参考：東京都

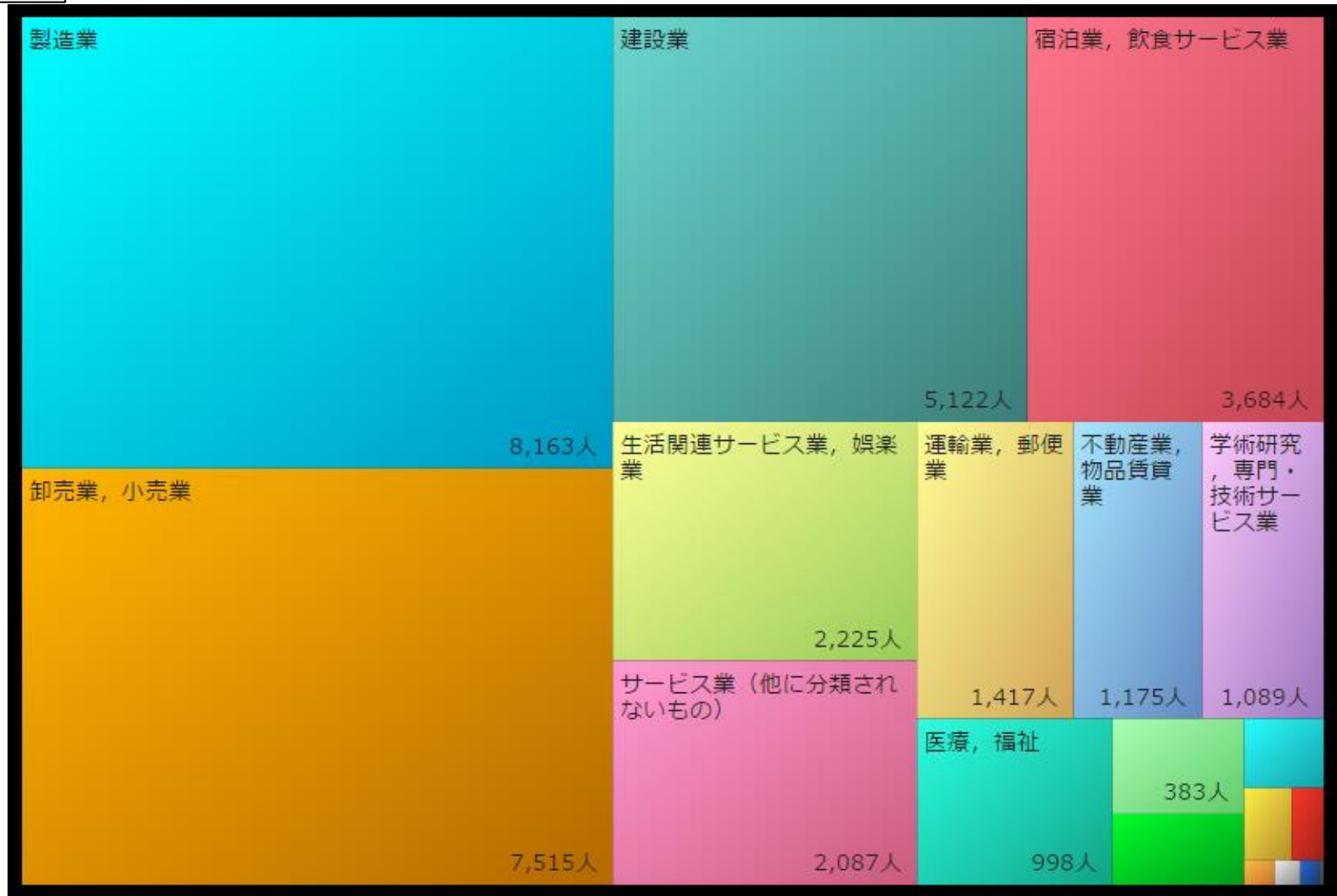
東京都は卸売業・小売業の従業者数が最も多いですが、他の産業にも多くの方が従事しています。長野県と比べ、情報通信業の割合が大きいことも特徴としてあげられます。



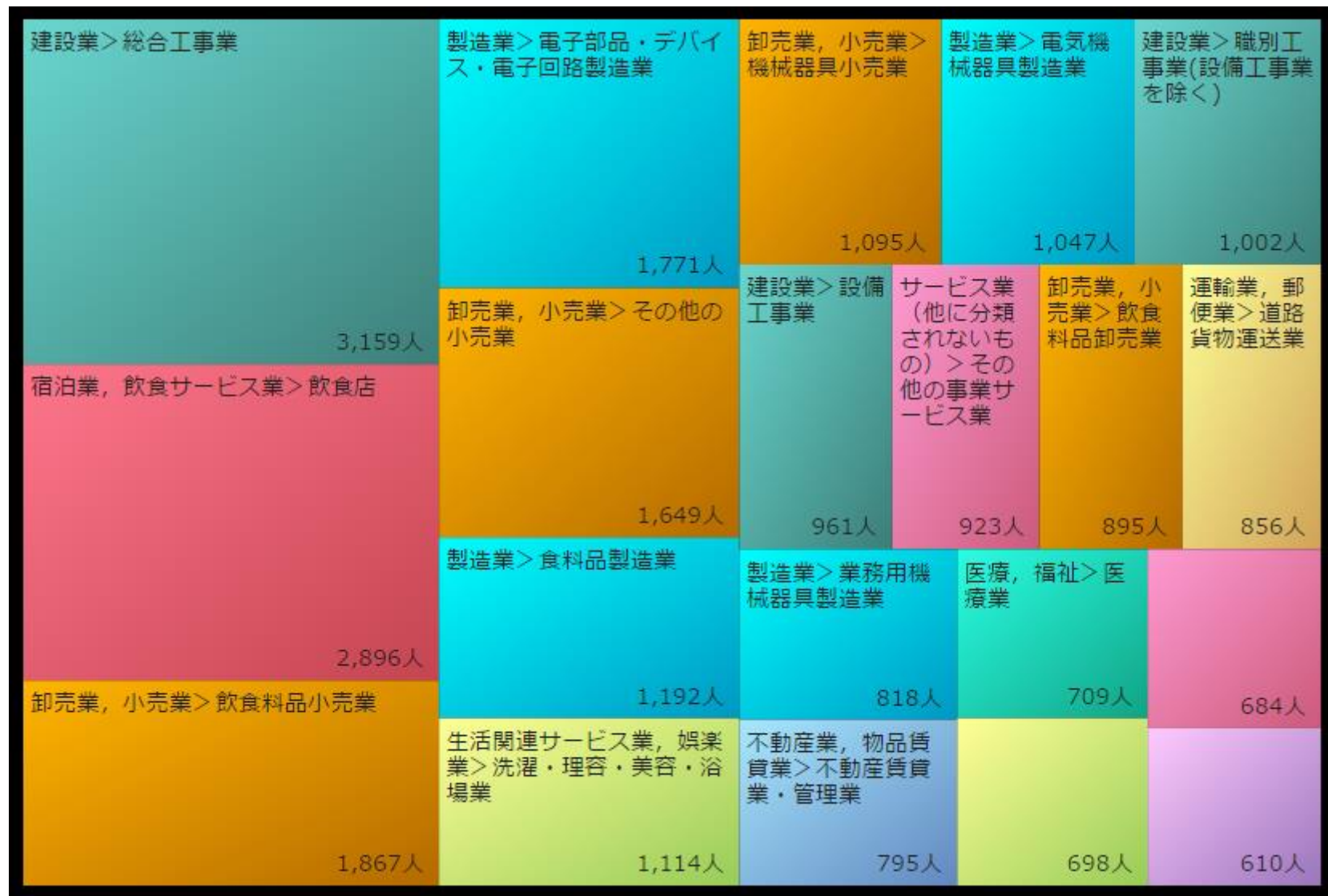
実践④ 飯田市の産業構造を見てみよう

大分類

飯田市にはどのような特徴がありますか？



もっと詳しく、「中分類」でみてみよう



産業マップでは、

・企業数 ・従業者数 ・売上高 ・付加価値額 ・事業所数
から産業の構造をみることができます



まとめ

「説得力」のある
問題・特徴の提示

人々の
共感・協力・行動を引き出す
↓
「困りごとの解決」
「魅力づくり」

地域分析や企画立案に活用できる主なデータ

数値(定量的な情報)

アンケート

統計

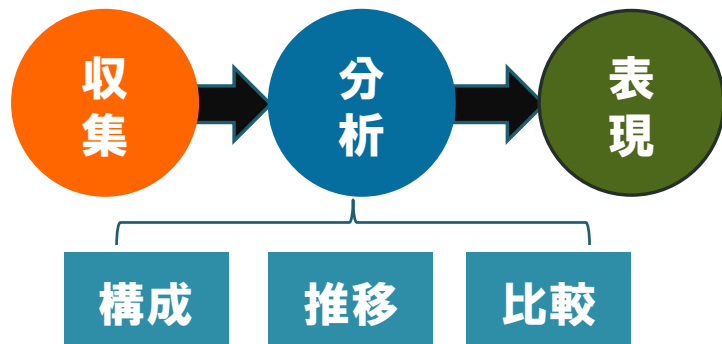


言葉・文章(定性的な情報)

文献

ヒアリング

観察・体験



- 目的を持って取り組む
- 目的に応じ、データを取捨選択し、多角的な視点で考える
- 「全体像」を把握してから、「詳細分析」をする

ぜひ、みなさんの勉強や地域活動に
データを活用してみてください。



■ 「長野県RESAS情報発信サイト」のご案内

信州をデータに基づいて分析し、課題発見や未来に向けた地域づくりの活動に役立てていただくためのRESAS情報サイトを開設しました。

(事務局:特定非営利活動法人SCOP)

「長野県RESAS情報発信サイト」

<http://npo-scop.jp/resas-nagano/index.html>



 実施レポート 出前講座・セミナー等の実施レポートや分析例をご紹介します	 講座のご案内 対象者別に出前講座やセミナー等の実施についてご案内	 関連リンク まち・ひと・しごと創生本部のホームページや活用事例を紹介
 CHECK 講座のレポート分析をチェック ※coming soon	 高校・大学関係者の方はコチラ	<ul style="list-style-type: none">● RESASポータル● RESASに関するお知らせ(まち・ひと・しごと創生本部)● RESAS最新情報(まち・ひと・しごと創生本部)● 「政策アイデア☆コンテスト」公式サイト● RESAS活用事例集
 各種マップを活用したアウトプット例の紹介	 NPO・市民団体・企業関係者の方はコチラ	



Facebookページも開設しました！

データから考える信州の未来。

<https://www.facebook.com/resasnagano/>